

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380232

研究課題名(和文) 社会規範を重視したコンプライアンスの経済分析

研究課題名(英文) Economic analysis of compliance which emphasizes social norms

研究代表者

寺地 伸二(Teraji, Shinji)

山口大学・経済学部・教授

研究者番号：10263758

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、経営者と消費者との相互関係において、企業の社会的パフォーマンス(corporate social performance, CSP)を論じるものである。本研究は企業の社会的パフォーマンスを公共財の私的供給としてとらえる。モデルにおいて、二種類の社会的選好を想定する、すなわち、企業の社会的パフォーマンスにたいする消費者と経営者の嗜好である。企業の倫理的行為を決定づける主要な力は、相互関係において結果として生じる社会的満足である。社会的価値にたいして反応しない場合がある一方で、高い道徳的水準を維持する企業においては、社会的関心の高い消費者への期待に合致し、公共財の私的供給が行われる。

研究成果の概要(英文)：This study discusses corporate social performance (CSP) in manager-consumer interactions. The study identifies CSP with the private provision of public goods. The model analyzes two kinds of social preferences: the consumer's taste for CSP and the manager's taste for CSP. The primary force in determining the level of corporate moral conduct is the resulting social satisfaction in the interactions. A behavioral view identifies an alternative source of inertia as the low level of moral conduct insensitive to the social values. The firm operating at the high level of moral conduct focuses on meeting the expectations of socially conscious consumers and improves the provision of public goods.

研究分野：理論経済学

キーワード：社会規範 経済秩序 経済行動

## 1. 研究開始当初の背景

企業にたいして、法律や社会規範の順守、つまりコンプライアンスが求められるようになった。しかしながら、経済学の理論においては、株主のために利潤を最大化することが企業の目的であるという考え方が支配的であり、コンプライアンスをその中心にすえているわけではない。社会の要請に対応して、新たな経済理論を構築する必要がある。

本研究は、コンプライアンスを、法律ばかりでなく社会規範の順守として広くとらえ、ルールを守る側と守らせる側がそれぞれコンプライアンスを強化していくメカニズムを分析する。

人々は社会規範から逸脱することで、罪悪感などの負の感情を抱く。こうした負の感情の発現プロセスについて、経済主体による社会規範の内在化から解明していく。さらに、社会規範の順守を継続することで、名声あるいは社会的イメージを形成していくプロセスを動学モデルによって考察する。

このようにして、社会規範を守るためのインセンティブのミクロ的基礎づけを行っていく。コンプライアンスを、関係する法律を守るだけでなく、社会規範の順守まで広くとらえて、経済主体がコンプライアンスを強化していくメカニズムを分析する。

法律だけでなく社会規範がなぜ必要なのかを経済学的に明らかにし、次に、社会規範に沿って行動するインセンティブを検討する。最後に、ルールを守らせるというエンフォースメントとして、第三者による利他的懲罰を考察する。組織内部にいる経済主体の社会的選好の創発とその進化について考察し

た。本研究においては、利他的行動が持続可能になるための制度的条件を理論的に明示化した。社会規範と経済主体の選好との相互関係を考察して、経済理論の発展を試みた。

## 2. 研究の目的

本研究は、コンプライアンスを、法律ばかりでなく社会規範の順守として広くとらえ、ルールを守る側と守らせる側がそれぞれコンプライアンスを強化していくメカニズムを分析する。

人々は社会規範から逸脱することで、罪悪感などの負の感情を抱く。こうした負の感情の発現プロセスについて、経済主体による社会規範の内在化から解明していく。さらに、社会規範の順守を継続することで、名声あるいは社会的イメージを形成していくプロセスを動学モデルによって考察する。このようにして、社会規範を守るためのインセンティブのミクロ的基礎づけを行っていく。

## 3. 研究の方法

本研究は、コンプライアンスを、関係する法律を守るだけでなく、社会規範の順守まで広くとらえて、経済主体がコンプライアンスを強化していくメカニズムを分析する。まず、法律だけでなく社会規範がなぜ必要なのかを経済学的に明らかにし、次に、社会規範に沿って行動するインセンティブを検討する。最後に、ルールを守らせるというエンフォースメントとして、第三者による利他的懲罰を考察する。

本研究は、コンプライアンスを、法律ばかりでなく社会規範の順守として広くとらえ、ルールを守る側と守らせる側がそれぞれコンプライアンスを強化していくメカニズムを分析する。

次の [Phase ] ~ [Phase ] を通じて、新たな経済理論の構築を目指す。

[Phase ]

経済秩序において、社会規範を重視したコンプライアンスがなぜ必要なのかを明らかにする。

「法と経済学」の分野では、法を守ることと得られる金銭的便益と、法を破ることで被る金銭的費用との比較で人間行動をとらえてきた。法律は形式的に定められたルールであるのに対して、社会規範は非形式的なルールであり、たとえ社会規範を守らなくても法的罰則を受けるわけではない。非金銭的な要因を重視する「行動経済学」の研究成果を使って、人間行動の理論を拡張することで、経済秩序における社会規範の必要性を明らかにする。

[Phase ]

社会規範を守るためのインセンティブのミクロ的基礎づけを行う。

人々は社会規範から逸脱することで、罪悪感などの負の感情を抱く。こうした負の感情の発現プロセスについて、経済主体による社会規範の内在化から解明していく。

さらに、社会規範の順守を継続することで、名声あるいは社会的イメージを形成していくプロセスを動学モデルによって考察する。このようにして、社会規範を守るためのインセンティブのミクロ的基礎づけを行っていく。

[Phase ]

社会規範を守らせるための懲罰メカニズムを明らかにする。

直接の関係者ではない第三者であっても、社会規範の逸脱者を罰する意思がはたらくことがある。こうした利他的懲罰が自発的に発生するメカニズムを理論的に考察する。最終的には、社会規範を守る側と守らせる側との相互依存関係をゲーム論的に明らかにし、効率性の高い状態で人間社会を運営していくためのシステム設計を提示する。

#### 4 . 研究成果

組織内部にいる経済主体の社会的選好の創発とその進化について考察した。本研究においては、利他的行動が持続可能になるための制度的条件を理論的に明示化した。社会規範と経済主体の選好との相互関係を考察して、経済理論の発展を試みた。

企業にたいして、法律や社会規範の順守、つまりコンプライアンスが求められるようになった。しかしながら、経済学の理論においては、株主のために利潤を最大化することが企業の目的であるという考え方が支配的

であり、コンプライアンスをその中心にすえているわけではない。社会の要請に対応して、新たな経済理論を構築する必要がある。本研究は、コンプライアンスを、法律ばかりでなく社会規範の順守として広くとらえ、ルールを守る側と守らせる側がそれぞれコンプライアンスを強化していくメカニズムを分析する。

人々は社会規範から逸脱することで、罪悪感などの負の感情を抱く。こうした負の感情の発現プロセスについて、経済主体による社会規範の内在化から解明していく。さらに、社会規範の順守を継続することで、名声あるいは社会的イメージを形成していくプロセスを動学モデルによって考察する。

このようにして、社会規範を守るためのインセンティブのミクロ的基礎づけを行っていく。コンプライアンスを、関係する法律を守るだけでなく、社会規範の順守まで広くとらえて、経済主体がコンプライアンスを強化していくメカニズムを分析する。まず、法律だけでなく社会規範がなぜ必要なのかを経済学的に明らかにし、次に、社会規範に沿って行動するインセンティブを検討する。最後に、ルールを守らせるというエンフォースメントとして、第三者による利他的懲罰を考察する。組織内部にいる経済主体の社会的選好の創発とその進化について考察した。

本研究においては、利他的行動が持続可能になるための制度的条件を理論的に明示化した。社会規範と経済主体の選好との相互関係を考察して、経済理論の発展を試みた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

〔学会発表〕(計 1件)

〔図書〕(計 1件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究代表者  
(寺地伸二(Teraji, Shinji)山口大学・経済学部・教授)

研究者番号：10263758

(2)研究分担者  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )

